

体験を取り入れた学級活動

— 豊かな心をもち、主体的に生きようとする生徒の育成 —

足利市立第一中学校 坂田 昇

1. はじめに

本校では、10数年前、同和教育の研究指定を受けて、長く同和教育を中心に研究をすすめてきた。

一人一人の生徒の学力（生きる力）を伸ばす工夫を学校課題として実践的研究を積み重ねてきた。具体的には、一人一人の生徒の実態を主として学年ブロックを中心として把握し、生徒一人一人の願いを吸収し、それに答える努力を進めてきた。

その後、平成4年度に高齢者福祉教育推進校に指定され、次いで平成5年度には『高齢者福祉教育活動実践モデル校』に栃木県教育委員会から指定された。さらに、平成6年度には、高齢者福祉教育啓発推進事業実施校に選ばれた。また、栃木県社会福祉協議会から『学童・生徒のボランティア活動普及事業』として3年間の指定を受けた。このような背景から、同和教育の研究とあわせて、高齢者福祉教育の実践研究を進めて行くことにした。そして、3年間が経過した。以前から実施してきた友愛訪問のやり方もいろいろ替えて実施するようになった。お年寄りとのふれあいを通して温かい心を培うという目標もある程度達成できた。

このように、心の指導に重点をおいて高齢者福祉教育の実践研究を進めてきた。しかし、本当に心の指導は十分になされたか。生徒一人一人が思いやりの気持を持てるようになったか。教師側の自己満足に過ぎないのではないだろうか。あいかわらず根絶することのない、いじめや登校拒否生徒の存在を考えると心の指導は十分とはいえない状況である。もう一度、原点に戻って生徒のことを考えてみてはどうかという意見も出された。このようなことから、今年度の4月に『豊かな心をもち、主体的に生きようとする生徒の育成』という研究主題を設定した。

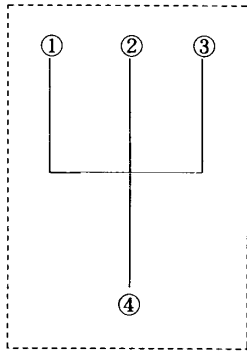
2. 学校課題と課題解決の手立て

豊かな心をもち、主体的に生きようとする生徒の育成

～奉仕・体験活動を通して～

上記のような学校課題を設定した。副題を『奉仕・体験活動を通して』とした。ここでいう「豊かな心」とは、学習指導要領でもいくつか挙げているが、その中でも、「他人を思いやる心」を重視していきたいと考えた。それでは、具体的にこの学校課題を解決するためにどのような手立てが必要か。以下の4つの柱をおいた。

①道徳教育の充実 ②奉仕・体験活動の充実 ③教科指導の充実 ④学級経営・同和教育の充実



これらは、全て並立ではなく、左のような関係になる。そのなかで特に④の学級経営同和教育の充実を中核に据え、日々の教育活動にかかわる基底的なものとしておいた。さらに、②の奉仕・体験活動を効果的に取り入れ、生徒に豊かな体験を積ませることにより、主体的に生きる生徒の育成を図ろうと考えた。

このような課題解決の手立てを考えたわけであるが、それでは、実際どのような奉仕・体験活動がなされたか。2学年の実践例を2つ紹介していきたい。

3. 奉仕・体験活動実践例

(1) 友愛訪問

本校の奉仕・体験活動の核となっている全学年参加の活動である。以下、そのねらい、実施方法、活動のプロセスを紹介したい。

ア ねらい

学校区内に住む一人暮らしの高齢者宅を訪問し、楽しく歓談したりゲームをしたりして高齢者とのつながりを深め、高齢者からいろいろなことを学ぶ。

2年 友愛訪問資料 1組 5班 班長			
訪問宅		さんの家	
住所	足利市	町	番地
		TEL	
訪問の目的 おじいさんと、交流を深める			
訪問する生徒	_____		

準備する物	_____		

話をする内容	おじいさんにやおじいさんの子供の頃の話し 今と昔の興味を持つこと 今の内閣について(平和な時の話しはいい) 昔の子供と今の子供のちがいを 今の生活のこと 戦争の様子を聞く (戦争のころの苦しかったこと、つらかったこと)		
地図			

イ 対象学年

全学年 第1回 7月 2. 3年
第2回 10月 1. 2年

ウ 活動計画 ～4時間扱い～

(ア) 第1時

民生委員さんの協力で事前に作成していた該当者名簿をもとに近くに住んでいる生徒に訪問案内書を持参させる。その案内書に訪問の可否を書いてもらう。そうしてできた「訪問宅名簿」を各学年、クラスに配当する。各クラス6～8の訪問宅を割り当てる。

(イ) 第2時 ～展開例参照※

事前指導の時間をとる。グループ分けと話題や持っていくもの、訪問者の自宅の場所等の確認となる。左のような形になる。

(ウ) 第3時

決められた時刻に、訪問者宅にでむいて和やかな一時を過ごす。担任教師は、できるだけ自分のクラスの生徒の訪問者宅を回る。そこでさしつかえなければビデオや写真の撮影をする。

※展開例

☆印 配慮生徒への対応

指導内容	学習活動	時間	指導上の留意点	資料	評価
・導入	1. 昨年友愛訪問に行ったときのビデオを視聴する。	10分 (全)	・お年寄りを前に、何を話していいかわからなくなってしまっていて会話が続かなかったグループが多かったことを想起させる。	VTR	
・訪問上の諸注意	2. ビデオ視聴後、気をつけねばならない点を話し合う。	10分 (班)	・VTRにでているグループの生徒の個人攻撃にならないように配慮する。 ・和やかに会話ができるためには事前にお年寄りが興味を持つような話題を準備しておくこと。また、質問ばかりではなく自分達の身の上話も付け加えることを意識づけたい。 ・お年寄りのプライバシーにあまり立ち入るような質問をしない事も確認させる。		・訪問では和やかな雰囲気作り心掛けることと相手の立場に立って話すことが大切であることに気づけたか。理解できたか。 (発表・観察)
・グループ分け	3. 配当された訪問宅数にあわせ、グループ分けをする。	5分 (全)	☆グループピングでいつも疎外されがちな生徒Aがうまく入れるよう事前指導しておく。 ・生徒は訪問者の名前からある程度どんな方か分かっているため、人気が片寄ってしまう。力のある生徒がいつも得をすることがないように配慮する。 ・なるべく一人は訪問宅の近所に住んでいる生徒を入れる。	訪問者名簿	
・訪問プリント作成	4. 訪問のための準備プリントの作成をする。	25分 (ゲ)	☆机間指導をしながら配慮生徒A・Bと一緒に作業に入れるよう支援する。 ・話す内容や準備物が適切でないときは、もう一度話し合わせる。準備物はあまり手のかからないものにする。 ・略地図は誰もが知っている目印を必ず入れさせる。	プリント	・訪問の手みやげ、話す内容、地図等がうまくまとめられているか。 (プリント)

(e) 第4時～事後指導

友愛訪問の反省をさせ、次回の活動に役立たせる。作文も書かせる。

下の写真は友愛訪問をした2つのグループの写真である。



エ 生徒の感想

『心のふれあい』それは、今回の友愛訪問から学んだ大きな実りである。

私たちの中学校では、地域の一人暮らしのお年寄りを訪問して楽しい一時を過ごす“友愛訪問”という行事がある。私は、今回3回目の訪問で、すごく元気なおばあさんの家を訪ねた。

「こんにちは」私たちは大きな声であいさつした。すると、「こんにちは」と優しい笑顔と私たちに負けないくらいの元気な声で返事をしてくれたおばあさん。そんな姿を見て、私たちの不安は一気に消え去り、新たな期待で胸がふくらんだ。

そして、おばあさんとの会話が進むと、昔の遊びのことが話題になった。「おばあさんの子どものころは、お手玉やおはじきをしてよく遊んだんだよ。それからあやとりもしたり・・・。」おばあさんは、話の途中で突然席を立ち、奥の部屋に行ってしまった。すると、何かを手にもってきた。「あやとりするかい？」と私たちに声をかけてくれた。私たちは、喜んで「はい。」と返事をした。あやとりを私たちに教えてくれるときのおばあさんの顔は、とても生き生きしていた。きっと、おばあさんの子どものころを思い出して、なつかしんでいるんだろうなと思った。おばあさんといっしょにあやとりをしていると、私は何かを得たような感じがした。それは、一本の毛糸を通してお互いの心と心が通いあい、温かい温もりを感じ取ることが出来たのだ。一本の毛糸から、こんな大きな感動を与えてくれたなんてとても素晴らしいことだと思った。

みなさんも、ぜひ、昔の遊びを見直して、体験してみませんか。きっと、素晴らしい何かを発見することが出来ると信じてー。

(2) 職場訪問

第2学年の進路指導の中心として位置付けられている。実際に職場を訪問することにより、生きた情報を生徒に提供するものである。

ア ねらい

生徒に興味のあるいろいろな職場を見学・実習することにより、それぞれの職業の内容や特色、要求される適性や資格について理解させる。

訪問先 キンカ堂

< 訪問して分かったこと >

仕事の内容

メーカーから品物を仕入れて、私連に販売する。

この仕事につくためには

・研修を受ける。その時、レジの仕方、包装の仕方、お客様との接持の仕方などを学ぶ。

仕事の難所

- ・仕事の苦勞は特にないけれど、品物や人がたくさん来た時大変。
- ・気分が悪い時、苦惱などで「すみません」と頭を下げるのがつらいけれど、頭を下げられるかどうかは勝負。

分かったこと

- ・アメリカで最初にできたスーパーはセルフサービスが原点であり、人権などまかけないようだった。
- ・ブランド品は、全国で販売されているナショナルブランドと、その店独自で売っているプライベートブランドがある。キンカ堂の場合、「くらしモト」や「マミーラブ」。
- ・お店のモットーは、「店が客のためにある」と、「有言実行」。『有言実行』とは、「自分で言ったことは、責任を持ってやる」という意味。
「お客様が安心できるように」
- ・品物が一番売れる時期は12月で、お歳暮などが主となる。
- ・個性豊かなところだけは、他の店には負けない。

感想

普段見ることでできない所が見学でき、貴重な体験をすることができた。また、私連が普段買い物をしている大規模スーパーで働いている人の苦勞も実感した。これからも、私連の生活を支えていく手助けをしていてもらいたい。

イ 指導（活動）計画 ～5時間～

(ア) 第 1 時 ～展開例参照※

職業にはどんなものがあるか。職業と産業の違い等を学習する。「職業の世界」の導入の授業である。

(イ) 第 2 時

職場訪問の話合い（事前学習）。

どんな職業を見学したいか話し合いグループをつくる。

1グループ4人～5人

(ウ) 第 3 時

実際の職場に訪問する。決められた時間に決められた場所に集合させる。

あいさつや言葉遣いなど事前に指導しておく。

(エ) 第 4 時

まとめ、発表会のための準備。この職業につくために必要な資格、この職業について苦勞したことや良かったことをまとめさせる。

(オ) 第 5 時

発表会。他のグループの発表を聞いたり質問したりして自分たちの調べた以外のことまで知る。

(カ) 教師側の準備と支援

前年度までの職場訪問資料から訪問可能な職場をある程度ピックアップしておく。それをもとに生徒の希望を取る。始めてできた職場や会社については訪問が可能かどうか電話連絡する。

訪問可能な職場が決まったら、「職場訪問のお願い」という文書を持って担任や学年主任があいさつ回りをする。このとき、どのような質問をするか、特にどのようなところを見学したいか打ち合せをする。訪問当日は、交通に十分注意させるとともに訪問時刻をしっかりと守らせる。社会での常識についてもある程度指導しておく。訪問が終わった後、2・3日以内に礼状を送る。右の写真は、ココスを訪問したグループの写真である。



※ 展 開 例

☆印 配慮生徒への対応

指導内容	学 習 活 動	時間	指 導 上 の 留 意 点	資 料	評 価
・導入	1. 最近の職業の呼び名を知る。	5分 (個)	・最近の職業は横文字で表される。それが、どんな職業を表しているかを生徒に知らせることによって、最近の職業事情の紹介をするとともに興味づけを図る。 ☆事前に生徒Aに対し個別指導の時間を取り、答えられるようにしておく。	短冊カード OHP 作業用紙	
・職業と産業の違い	2. 職業アンケートをもとに話し合う。 (1) 知っている職業は何か。 (2) なりたい職業は何か。	15分 (全)	・2学年生徒の一番知っている職業を順にならべた資料(半分隠したもの)を提示し、クイズ形式で尋ねる。なりたい職業についても同様に扱う。 ・調査結果の中に職業と産業を取り違えて表現しているものを見つけ、職業と産業の違いについての説明を加える。	模造紙	・職業と産業の違いが理解できたか。 (発表・観察)
・職業選択にあたっての課題	3. 職業選択にあたって大切なものは何かを考える。 (1) 生徒のアンケート調査と高卒就職者の意見とを比べる。 (2) 実際に就職しようとしている先輩や現在働いている人のインタビューを聞く。	25分 (全)	・職業についてあまり深く考えていない中学2年生とそれを切実なものとして考えている人々の集団(高卒就職者)とを比較することによって職業を選ぶ際の意識づけとしたい。 ・このところの女性の就職難についても触れ、必ずしも自分の希望に合った職業につけるわけではないことも押さえる。 ☆生徒の職業選択理由第1位「収入が多くて豊かな生活」と高卒就職者の資料「自分に適した職業は何か」を比較させたり、就職希望生徒のインタビューを聞かせたりすることを通して、職業選択にあたって自分の適性がいかに大事なものに気づかせる。特に配慮生徒の変容を促したい。	高卒就職者の資料 高卒就職希望者のインタビュー 看護婦さんのインタビュー カセットデッキ	・職業選択にあたって自分の適性をよく知ることがいかに重要なことか理解できたか。 (発表・観察)
・まとめ	4. 本時のまとめをする。	5分 (個)	・本時の授業の感想を書かせ、職業に対する認識が広まった生徒数名に発表させる。 ・何を書いてよいかわからない生徒には個別指導を加える。 ・今後、職場訪問を実施することも伝えておく。	作業用紙	・職業に対する認識が広められたか。 (作業用紙)

ウ 訪問先一覧

※1組

1班	【マクドナルド足利店】	永楽町7-11	(41-0772)	3人
2班	【宇都宮地方裁判所足利支部】	丸山町621	(41-3118)	4人
3班	【キンカ堂足利店】	朝倉町245-1	(72-8811)	4人
4班	【ヤクルト(株) 両毛ヤクルト販売】	花園町25	(42-8960)	5人
5班	【足利警察署】	家富町2143	(21-0110)	4人
6班	【シオダ食品(株)】	名草中町3537	(41-9811)	4人
7班	【レストラン大吉】	緑町1-3338	(21-5533)	3人

※2組

1班	【マクドナルド足利店】	永楽町7-11	(41-0772)	4人
2班	【東映】	井草町2408	(21-2586)	5人
3班	【ガトー山本(株) グランド店】	東砂原後町1071	(41-4616)	4人
4班	【コーヒー専門店メープル】	通4丁目2577	(21-5882)	5人
5班	【NTT足利営業所】	通3-2607	(44-0704)	6人
6班	【宇都宮地方裁判所足利支部】	丸山町621	(41-3118)	3人

※3組

1班	【友愛幼稚園】	通5-3437	(21-3532)	4人
2班	【足利赤十字病院】	本城3-2100	(21-0121)	4人
3班	【足利警察署】	家富町2143	(21-0110)	2人
4班	【ココス足利店】	朝倉町256	(70-1235)	4人
5班	【キンカ堂足利支店】	永楽町8-2	(41-4111)	7人
6班	【マクドナルド足利店】	永楽町7-11	(41-0772)	7人

計 82名

エ 生徒の感想

12月上旬、職場訪問に行った。私の訪問先は「裁判所」だった。なぜ裁判所にしたかという、行く前に先生が「自分の将来就きたい職業に関係のあるところにしなさい。」と言われたからだった。前々から裁判に興味があり、将来はそれに関係のある職場で働きたいと思っていた私は、裁判所に決めた。

少し風の強い日だった。着いたのは約束の時間の10分前位だった。行く前に「時間通りに来て下さい。」と言われ、改めて職場の忙しさを痛感したことを思い出した。

3階の会議室に案内された。私たちの質問に答えて下さったのは、庶務課の方だった。その方の話によると裁判に携わる者として、裁判官の他に書記官、速記官、調査官がいてほとんどは大学の法学部を卒業後、各種の試験を受けるということだった。最難関の司法試験の合格者は、平均年齢27.8歳とそれはいかに難しいものかを物語っていた。

職場訪問後、私は数人と共に裁判を傍聴したのだが「誰でも裁判を傍聴できる。」ということに驚かされた。なぜなら、それまでは、何か手続きの様なものが必要と思っていたからだ。

裁判が始まった。裁判官が黒の法服をまとい出てきた。黒とは公正さを象徴する色として用いられるそうだ。裁判官の毅然とした態度、そしてつきつきに記していく書記官、それに弁護士、検察官、頭を垂れる被告人。見るもの全てが新鮮に感じられた。

今回の訪問で、何よりの収穫は、実際に裁判を傍聴できたことだ。静寂の中で行われる裁判に感動し「こんなところで、働けたら。」とこの職場への憧れがいつそう強くなったような気がした。あと、私たちが快く受け入れてくれた裁判所の方に感謝の気持ちでいっぱいである。

4. 成果と今後の課題

ここに紹介したのは、代表的な活動例である。その他にもクリーン活動や老人ホーム訪問などがある。体験を重視した活動は準備や事前指導、礼状発送や事後指導など時間的に大変な面はある。しかし、2人の生徒が感想で書いてくれたように、新鮮な感動、新しい発見がある。現代の生徒は体験が乏しい。そういわれるようになってかなりの時が立つ。特に中学生は部活動や学習塾に時間がとられてしまう。こういった生徒に対し、ある程度学校側が体験の場を設定しなければならない。ちがう世界を見ることによって自分の今までの考え方、ひいては生き方まで変わってくるものと思われる。ぜひ今後も続けたいものである。

今後の課題としては、学校週5日制の中で少なくなってきた授業時間をいかに奉仕・体験活動に振り分けられるかといった時間数の確保がまずあげられる。今後、事前・事後指導の簡素化が必要になってくるであろう。次に、生徒の発達段階を考慮した、より感動を与えられるような奉仕・体験学習の内容、方法等の工夫をさらに進めていくことであろう。一方、現在行なわれている活動の見なおしも必要になってくるであろう。

評

第一中学校では、平成5年度に「高齢者とともに学ぶ教育」と題し、高齢者福祉教育活動実践モデル校としての様々な取り組みについての研究成果を教育論文集で発表されましたが、ここでは「友愛訪問」や「老人ホーム」訪問など、高齢者との心のふれあいを大事にした実践活動を中心に成果について述べられております。

今回の研究論文では、このような本校のこれまでの高齢者福祉教育の成果を踏まえうえて、「生徒一人一人が豊かな心を持ち、より主体的に生きようとする力を培うにはどうすればよいか」という学校課題を解決するため、特に体験活動を重視した実践の成果が紹介されており、その具体的実践例として、「友愛訪問」と「職場訪問」が取り上げられております。

「友愛訪問」と「職場訪問」のねらいは一見異なるようにも見えますが、高齢者とのふれあいを通してお年寄りの知恵ややさしさ、生き方に共感できるような体験も、職場で実際に働く人々とのふれあいを通して、そのきびしさや楽しさを知ったり、その雰囲気を感じ取ることによって新鮮な驚きや感動を味わえるような体験も、自分という存在を見つめ、よりよく生きようとするための土壌として欠くことのできないものがあります。このことは、高齢者宅を訪問した生徒の「1本の毛糸から、こんな大きな感動を与えてくれた」という感想や、裁判所を訪問した生徒の「職場の忙しさを痛感したこと」といった感想や裁判を実際に傍聴したときの感想からも十分伺えます。筆者も指摘しているように、生徒達が、心を揺さぶられるような豊かな体験にふれる機会の少ない現代社会にあって、多感な中学生という時期に、このような体験が得られる機会をどのように確保するかは非常に重要な課題であります。その意味でも、本研究の取り組みは、「生きる力」の根本に位置する「豊かな心」を培うための体験活動の在り方を探るうえで、各学校に大きな示唆を与える素晴らしい実践であると思えます。